

旧常盤小学校跡地の跡活用に関する地域説明会 議事概要

日時

・令和7年(2025年)9月27日(土)11時00分～12時40分

場所

・常盤一区会館(南区常盤6条2丁目107)

主催者

・グローバル・インディアン・エデュケーション株式会社(以下、GIE社)

オブザーバー

・札幌市 まちづくり政策局 都市計画部
・札幌市 総務局 国際部

議事概要

1 札幌市都市計画部より地域説明会の趣旨について説明

少子化が進み、小学校の統合が必要となった地域で跡活用を通じて地域コミュニティの維持・向上を目指してまちづくりを行っている。旧常盤小学校では、これまでに8回の意見交換会を行ってきた。緊急時の避難場所や多世代交流の場を求める地域の声を基に公募提案型売却という方法で事業者を募り、この度、GIE社から「ワンワールド・インターナショナルスクール札幌校」を開設したいという提案があり、有識者や地域住民からなる審査委員会を経て、最優秀提案者(売買契約の優先交渉権者)となった。本日は、GIE社から事業計画について地域住民の皆様にご説明いただき、地域に親しまれる取組となるよう、説明会を開催するもの。

2 主催者より開会の挨拶(英語のスピーチをGIE担当者が通訳)

地域の皆様、そして札幌市の皆様、本日こうして皆様とお会いできることを大変嬉しく思う。旧常盤小学校を、新しく活気あふれるインターナショナルスクールとして生まれ変わらせる機会をいただき、心より感謝申し上げます。この学校と建物は、多くの皆様にとって大切な場所であると認識しており、そこに我々も仲間入りできることを誇りに感じる。我々は、この学校をさらに良いものにするため全力を尽くす。子どもたちが毎日安心して楽しく学べ、地域の皆様と共にアイデアを出し合いながら一緒に子どもたちを育てていけるような場所にしたい。日本は世界をリードする技術大国であり、将来、多国籍チームを導くリーダーとして成長するためにも、日本の子どもたちが国際的な教育を受けることは大きな意味を持つ。皆様のご支援とご意見をお願いしたい。

3 芸術の森地区連合会会長より挨拶

今回GIE社が最優秀提案者となり、インターナショナルスクールを設立する計画となった。私が特に関心したのは、日本語しか話せない日本の子どもに、外国の言葉が話せるよう教育するプログラムをGIE社が持っている点だ。子どもたちが将来、様々な場所で働く

上で、このような学習機会がこの場所で得られることは非常に大切だと考えている。また、地域からの要望として、かねてより学校体育館やグラウンドの利用、災害時の避難場所としての活用を希望してきた。今回の計画では、地域連携活動として共にイベントを行いたいという前向きな発言もいただいております、2027年の開校を期待している。近年、バスの減便が深刻化し、運転手不足が課題となっている。今後、札幌市が外国人運転手を導入する可能性もあり、その家族が安心して暮らすためには、子どもたちが教育を受けるインターナショナルスクールが必要不可欠である。この学校はスクールバスを運行することによって、既存の路線バスへの影響も少ない。日本の子どもたちにとっても大きく成長する機会となるだろう。

4 札幌市国際部よりインターナショナルスクール立地の意義について説明

今回の計画は、単に新しい学校ができるということではなく、札幌市のまちづくりの方針に合致するものであるため、いくつか補足させていただく。第一に、ビジネス面で札幌が世界から選ばれる街になるために、この学校は有効であると考えている。国は今後10年間で環境エネルギー分野に150兆円以上の投資を決定した。札幌・北海道は再生可能エネルギーのポテンシャルが日本一であり、この機会を活かして、札幌をアジアや世界の金融・エネルギーの中心地にする動きがある。そのためには、AIなどの新しい技術を持つ海外企業や高度人材を誘致する必要がある、英語で高度な教育を提供できるインターナショナルスクールは、その重要な役割を担う。第二に、地域に新たな活力が生まれるということである。廃校となっていた場所に学校ができることで、新たな雇用が生まれるだけでなく、地域の活性化が期待できる。今回の計画は、札幌市の目指すまちづくりの方向性と合致する。

5 主催者より事業計画等について説明

(インターナショナルスクールの事業内容について)

- 母体であるグローバル・スクールズ・グループ(GSG)について、教育環境、提供する国際的な価値、世界最大級のインターナショナルスクールネットワークであること、その規模やブランドの強み、優れたグローバル教育を提供し続ける使命と情熱について映像を通して感じてほしい。
- GSGは、2002年にシンガポールで設立され、現在、世界11か国で64のキャンパスを展開し、約4万5000人の生徒が在籍している。20年以上にわたり実績を築いてきた。多国籍の子供がお互いを尊重し、一緒に学んでいくことを大切にしている。
- 日本では2006年に東京にキャンパスを開校してから、安定した運営を続けてきた。現在、東京ではグローバル・インディアン・インターナショナル・スクールを4キャンパス展開している。
- ワン・ワールド・インターナショナル・スクールは、2023年8月に大阪キャンパスを、先月には茨城県のつくばキャンパスを開校した。我々の学校は特定の国籍だけではなく、様々な国籍のお子様を受け入れており、東京校、大阪校の生徒の日本人の比率は55%以上であり、つくば校は90%である。インド人の生徒は大阪校では1%、つくば校では2名で、たくさんの日本人生徒が勉強している。
- 生徒数は一度に急増するのではなく、年々増加していくのが特徴で、札幌校についても時間をかけて拡大する見込み。
- 大阪校やつくば校は、旧小学校跡地を活用して実現したもの。旧常盤小学校の跡地で開校を予定しているのは、ワン・ワールド・インターナショナル・スクールである。未就学児を

対象とした幼児教育と、小学1年生から高校3年生に相当する12年間の教育を、国際的な高い知名度を持つ教育プログラムに基づいて提供する。

- 単なる教育施設ではなく、地域の資源を活かして国際的なまちづくりに貢献したい。地域の活性化や国際化に繋がると信じている。札幌市南区の豊かな資源（札幌市立大学、芸術の森、滝野すずらん丘陵公園、定山溪温泉、国際スキー場、果樹園など）を積極的に教育に取り入れ、地域に根差した学校づくりを目指すとともに、地域のまちづくりにも貢献していきたい。
- 開校時は未就学児から小学5年生までを対象とし、需要に合わせて学年を順次増やしていく計画。最初の生徒数は約50名、各クラスは最大18名程度の少人数制を考えている。最終的な最大定員は約650名。
- 地域の教育ニーズに応え、就学前の子どもに対する学びの場を提供するとともに、地域の子育て環境の向上にも貢献できると考えている。
- 教職員は、最初は約15名の体制でスタートし、生徒数の増加に応じて段階的に増員していく。教員は多国籍で、教育学の学位を有し、国際的な教育プログラムの経験が豊富な人材を、非常に厳しい基準を設けて採用し、質の高い教職員を揃え学びの質を維持している。札幌でも有能で責任感の強い教員の採用を目指し、質の高い教育を安定して提供する。

（地域貢献について）

- 私たちは地域社会との共生を何よりも大切にしている。具体的な取組として、地域の文化・スポーツ活動を支援するため、地域の団体に校庭や体育館を解放する予定である。
- 地域の皆様にご参加いただくイベントは、開校後の2年目以降に開始する予定。学校主催のイベントに地域の皆様にご参加いただき、交流の場を作っていきたい。
- 大阪校やつくば校では、地域の方々に施設の清掃などの業務を行っていただいている。旧常盤小学校でも関係機関と連携し、地域の雇用機会を創出していきたいと考えている。
- 札幌市と協定を結び、緊急時には体育館を避難場所として開放するなど、災害に備えた体制を整えたい。大阪校では年に一度、地域住民の避難訓練が行われており、教職員全員が参加する共同避難訓練の実施も検討している。札幌校でも同様の取組を検討している。
- 地域との継続的な対話の場として、地域連携協議会の設置を予定している。大阪では、学校、地域、弊社による3者協議体を設け、定期的に意見交換や連携を図ってきた。旧常盤小学校では、新たな取組として「みんなのポスト」を設置し、寄せられた声を協議会で検討し、施設運営に反映したいと思っている。地域と共に持続可能なまちづくりを進めたい。

（今後のスケジュールなどについて）

- 売買契約は今年の11月を目標としている。地域向け説明会は、今後も必要に応じて開催する予定である。生徒や教職員の募集は来年夏頃から開始する予定である。開校は2027年8月を予定している。
- このプロジェクトは、単に新しい教育の場を作るのではなく、地域の皆様と一緒にこの場所を盛り上げ、絆を深め、共に未来を築いていくことが何よりも大切だと考えている。

6 質疑応答

<参加者A>

1点目は学校の設置目的について。グローバル人材の育成という話だったが、会長の話では外国人労働者の子どもの受け皿という側面もあるように聞こえた。今後、単純労働に従事する外国人労働者の子どもたちの受け入れ先になるのか。

2点目は学費について。一般的なインターナショナルスクールは学費が高額であり、そこに通える高度な人材の子どもであれば安心できる。もし学費が安く、日本の卒業資格も得られないとなると、安い賃金で働く労働者の子どもが、質の低い教育を受けることになりかねない。

最後に懸念として、最終的に600人を超える規模になった場合、地域の伝統や文化が「国際的におかしい」といった理由で変えられてしまうのではないか。

<GIE社>

1点目について、我々の学校に通う保護者の皆様は、高度な教育を受けており、高い給与を得ている裕福な層である。安い賃金で働く労働者の子どもたちが入るのではなく、高い教育を受けた方の子どもたちが通っている。また、大阪校や東京校では、生徒の55%以上が日本人であり、日本人の子どもたちが安心して通える独自のプログラムを持っている。

2点目の学費については、未就学児は年間100万円以下、小学1～5年生は130万円程度、6年生以上は150万円程度と、学年が上がるにつれて高くなる。また、高校課程で国際バカロレア(DP)プログラムを修了すれば、日本のほとんどの大学の受験資格を得ることができ、実際に東京校からは早稲田大学や慶應義塾大学などへ多数進学している。

最後の懸念について、地域の文化を変えるようなことは一切ない。東京で20年近く運営しているが、そのような問題は起きていない。

<参加者B>

素晴らしい教育理念を持っている学校で感銘を受けたが、この校舎に、日本人の職員は何名常駐するのか。災害時など、地域住民が避難してきた際に、日本語で円滑に対応できる体制が整っているのか。

<GIE社>

事務所には常に日本人がおり、対応が可能である。教員チームの約20%は日本語が話せる外国人教員である。大阪の事務所では、現在10人程度の日本人職員がいる。札幌では、開校当初は生徒50人前後に対し、事務職員が4～5名、教員が10名程度の体制を想定している。

<参加者C>

私は北海道スポーツ協会の役員として指導者の育成に取り組んでいる。高齢化が進むこの地域で、高齢者も巻き込みながら活性化を図るために総合スポーツクラブを立ち上げたい。その際、体育館やグラウンドはもちろん、ミーティングルームやトレーニングルームとして教室を利用することは可能か。また、利用する場合の費用はどの程度になるのか。2027年に向けて調整させていただきたい。

<GIE社>

グラウンドと体育館については、地域団体に開放するつもり。しかし、教室に関しては、他の学校での経験から様々な問題があると判断しているため、宿題とさせていただき、後日回答したい。費用に関しても同様に後日回答させていただく。

＜参加者D＞

追加で3点質問したい。1点目は平日の利用は可能か。2点目は、多目的教室のような空きスペースを地域に開放していただけるか。3点目は、施設を日常的に活用することで、地域の方々と生徒たちの日常的な交流が生まれるのではないか。

＜GIE社＞

平日は、大阪では放課後の夜間に利用してもらっている。札幌でも同様に、我々が使用しない時間帯での開放は可能だと考える。教室の開放については、難しい部分もあるため、三者協議会などを通じて話し合い、後日回答したい。

＜参加社E＞

1点目は治安の問題について。学校関係者ではなく、関係のない外国人が「自分たちも行っていい場所だ」と集まってくる可能性について、事業者および札幌市はどう考えているか。2点目はお願いだが、私たちの町内会にはこれまでお知らせがほとんど届かなかったので、今後は情報共有や説明会をお願いしたい。

＜GIE社＞

外国人の家庭だから問題を起こすということはないと考えているし、20年近く学校を運営してきて、そのようなことは一切なかった。

＜札幌市都市計画部＞

札幌市からの回答として、もし何か問題が起きた場合の対応は、国籍に関わらず、既存の防犯体制の中で関係部署が情報を共有し、対応していくことになる。

＜参加者F＞

日本の伝統文化や日本語、道徳や倫理など日本人としてのアイデンティティを確立させる教育を土台とした上で、国際化を進めるという内容なのか。日本で開校する以上、その点をどう考えているか、札幌市も含めて伺いたい。

＜GIE社＞

日本語は、日本で使っている教科書を使用し、全ての生徒が学べるようになっており、専任の教員が教える。教育プログラムは国際的なものであるため、メインの言語は英語だが、日本の伝統や文化についてもテキストに沿って教えている。日本人生徒だけでなく外国人の生徒にも教えている。日本の教科書を使うことで、日本独自の道徳やマナーも学べるようにしている。

＜参加者F＞

土地を売却する必要があるのか。地域貢献というなら、リース契約にして地域にお金を落とす形が良いのではないか。また、事業者選定において、地域貢献活動の評価点が次点の提案者より低いにも関わらず、GIE社が最優秀提案者になったのはなぜか。価格が高い方に決めたということではないのか。

＜札幌市都市計画部＞

小学校跡地については、使わない財産を市で抱えずに、民間の方に有効活用してもらうため売却する方針で進めている。事業者選定については、グローバル社が80.4点、次点が78.4点であり、総合点でグローバル社が最優秀提案者に決定した。地域貢献活動の項目（配点25点）では、グローバル社が21.4点、次点の方が22.0点だったが、事業の確実性・継続性、地域連携・協力、事業内容など他の項目を含めた総合点で上回ったため、選定された。

<参加者G>

計画通りになれば素晴らしい地域になると思う。しかし、一番懸念しているのは、外国人が増えた時の問題である。憲法98条2項で外国の人が来られた場合、日本人は文化などを受け入れなくてはならないとなっている。札幌市では今年4月に共生社会の実現に向けた条例ができたが、もし何かトラブルがあっても、高い学費を払える方なので心配ないと聞いたが、市民を守る法律がない状態で、なぜ札幌市がインターナショナルスクールを誘致しようと判断したのか理解できない。そもそも、この計画について地域住民の賛成・反対を聞いたのか。

<札幌市国際部>

札幌市としては、年齢、国籍、性別などに関わらず、お互いを理解し合える社会を目指す趣旨で条例を施行した。国も多文化共生を進めているが、一方で、受け入れられる側の外国人の方にも、日本の文化を受け入れ、ルールを守ってもらう必要があると考えている。共生の理解促進とトラブル防止の両方の側面から、日本語習得支援などの取組を行っている。いただいたご意見は、持ち帰らせていただく。

<参加者G>

開校した場合は、スクールバスを出すのか。海外の方は自家用車での送迎がほとんどだと思う。交通法規が分からない外国の方もいる。移民の布石になる可能性があるのではないか。日本や地域がきちんとしていれば、グローバル社の学校は本当に良い学校だと思う。子どもにとっても社会にとっても良い学校だと思うが、このような状態では市民は受け入れられない。

<札幌市都市計画部>

ご意見として承りたい。

この説明会は、これまで地域の方々と議論を重ねてきたため、グローバル社から提案をいただいた事業計画を常盤地域の方に説明するという趣旨で開催したもの。

いまの意見は札幌市に対する移民や外国人の居住に関する意見だと思う。地域の方からご意見をいただく場なので、他の方からもご意見をいただければと思う。

<参加者H>

これだけ反対者がいる中で、中止することは考えないのか。売却条件にコミュニティの向上となっているのに、地域の理解があって進めることができるのではないか。

<GIE社>

ここまでの反対は想定していなかった。

(共生条例反対、移民反対などの怒号)

<参加者I>

私はこの計画を歓迎する立場で参加している。地域とコミュニケーションを重ねて良いものを作っていきたい。この数年間、小学校の跡地活用については、札幌市からニュースレターで何度も周知されてきた。意見を出す機会もその都度設けられており、私も提出した。今回の事業者募集にあたって、地域の代表者が委員となって審議を進めてきた経緯があり、そのプロセスは住民に公開されてきたはずだ。

<参加者J>

今日来られなかった住民もあり、説明会の内容を後から知りたいと言われている。質疑応答の録音は禁止とのことだったが、どのようなやり取りがあったのか、後日、市のホームページなどで公開してもらえるのか。契約成立前に質疑をしたいので、具体的な公開時期を教えてください。

<札幌市都市計画部>

本日はGIE社主催の説明会であるため、今後どのような形で情報提供できるか、持ち帰って検討させていただきたい。できるだけ早い段階で回答できるよう努める。

<参加者K>

現在は日本人比率が高いとのことだが、将来的には外国人の割合が増え、この地域に居住する外国人も増えるのではないかと。そうなった時、ゴミ出しなどの地域のルールや文化が守られるのか、非常に懸念している。過去に、外国人留学生が多く住む寮で、ルールが守られない不満を聞いている。この地域の住民が少なくなり、外国人が増えた時、ルールが外国人の側に寄っていき、自分たちが住み続けられなくなるのではないかと不安に思う。

<札幌市国際部>

外国の方が増えることに伴う共生のことだと思う。様々なご意見があることを認識したので持ち帰りたい。これは学校の運営というより、札幌市の施策の問題というところもあるため、ご意見は承知した。

<札幌市都市計画部>

（経過時間と担当者の体調を理由に）ここで終了させていただきたい。様々なご意見をいただいたので、持ち帰り総合的に検討させていただく。

令和7年(2025年)11月6日 下線部を修正